

北海道浮魚ニュース

平成 28(2016)年度 20 号

2016 年 9 月 16 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎平成 28 年オホーツク海サンマ漁況見通し発表される

北海道立総合研究機構水産研究本部釧路水産試験場・網走水産試験場および国立研究開発法人水産研究・教育機構東北水産研究所・北海道水産研究所が協議を行い、9月16日に「2016年（H28年）オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたので、内容をお知らせします。

【漁況見通し】

- ① 来遊量 : 昨年並で少ない
- ② 来遊時期 : オホーツク海沿岸への来遊は 10 月上旬以降

1. オホーツク海へのサンマの回遊（予備知識）

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は中型・小型魚が主体で、この群は7月下旬～8月下旬に北方四島の太平洋側から移入するものと考えられています。オホーツク海に回遊したサンマは、8月～9月にはオホーツク海の中南部海域に広く分布しますが、9月以降の海水温低下に伴い、宗谷暖流域の比較的水温の高い（10℃以上）北海道沿岸域へと移動して漁獲されます。従って、7月～8月に北方四島沖太平洋に分布する中型・小型魚の分布量が多く、さらに、北方四島周辺の表面水温が好適（10℃以上）であれば、太平洋からオホーツク海への来遊量は多くなると考えられます。

（魚体区分：大型魚（体長 29cm 以上）、中型魚（24-28cm 台）、小型魚（24cm 未満）。年齢：大型魚は 1 歳，中型・小型魚は 0 歳）

2. 昨年(2015 年)の漁況

2015 年は、太平洋からオホーツク海へのさんま棒受網漁船の回航はありませんでした。オホーツク海沿岸からは出漁したものの、漁獲はありませんでした。また、9月中旬に調査船北辰丸が行った目視調査でもサンマの分布はほとんど確認されませんでした。

3. 2016 年の来遊量および来遊条件

・7月～8月の太平洋における中型・小型魚の分布量

7月～8月の北方四島沖太平洋におけるサンマ分布量の指標として、太平洋（千島・道東海域）におけるサンマ棒受網漁業の漁獲尾数を調べました。その結果、漁獲物のうち中型・小型魚は 33%を占め、これらの推定漁獲尾数は 0.11 億尾（2003 年以降の 14 年間で 4 番目に少ない）と、昨年の 0.11 億尾（同 3 番目に少ない）と同じく低い水準でした（図 1）。

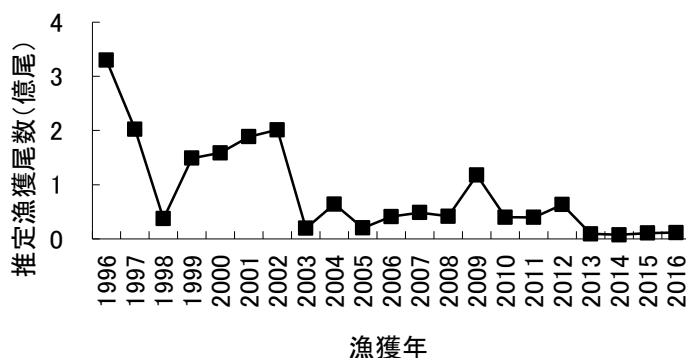


図 1 太平洋海域における中型・小型サンマの推定漁獲尾数（8月下旬まで）

・オホーツク海へ回遊する海況条件

前述のように、7月下旬～8月下旬の北方四島周辺における表面水温が高い（10℃以上）年には、サンマがオホーツク海へ回遊する条件が好適であると考えられています。今年の7月下旬～9月上旬の北方四島海域の表面は、ほぼ全域にわたって10℃以上の水温帯に覆われていました。従って、今年の太平洋からオホーツク海へ回遊する海況条件は、好適であったと考えられます。

4. オホーツク海沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、水温が17℃以上の年に限れば、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向にあります（図2）。

今年の週間平均表面水温の最高値は8月第4週の18.4℃で、昨年よりも0.6℃低い状態でした（図2）。この水温を過去の初漁日と水温の関係に照らし合わせると、今年の初漁日は10月上旬以降と推定されました。

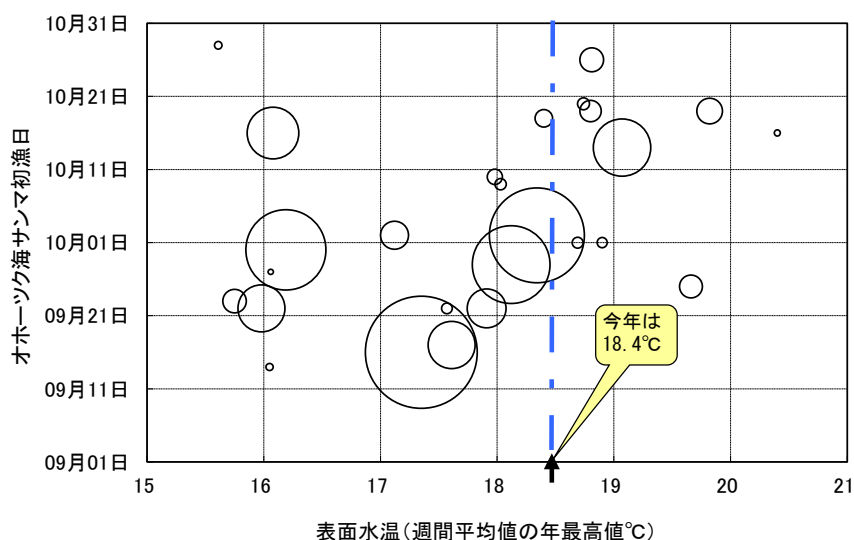


図2 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係
表面水温は北緯44度～45度、東経143度～144度の海域
図中の丸は年間漁獲量の多さを相対的に示し、最も大きい丸は約2万トンである。

5. その他

オホーツク海で操業するさんま棒受網漁船の多くは太平洋から回航してくるため、オホーツク海における漁獲量は、来遊資源量が十分ならば、回航船の延べ操業隻数に左右されます。また、9月中旬・下旬の太平洋（千島・道東海域）の漁況が良好である年はそこで操業を続けるため、オホーツク海への回航隻数は少なくなる傾向にあります。このため、この時期の太平洋（千島・道東海域）の漁況がオホーツク海の漁獲量を決定する要因の一つになっています。今年は9月中旬（14日現在）でも道東太平洋海域に漁場が形成されていませんが、オホーツク海への来遊資源量が少ないと考えられるため、オホーツク海へ回航する漁船は少ないと思われます。

まとめ

今年はオホーツク海へ回遊する海況条件は好適であったものの、太平洋（千島・道東海域）における8月末までの中型・小型魚の推定漁獲尾数が昨年並で少ないことから、オホーツク海への来遊量は昨年並で少ないと予想されます。また、沿岸への来遊時期は10月上旬以降になると考えられます。

（釧路水産試験場調査研究部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225）